

研究課題別事後評価結果

1. 研究課題名： 剛性フィードバックでの運動のトランスファーと向上

2. 個人研究者名

高木 敦士（日本電信電話（株）コミュニケーション科学基礎研究所 特別研究員）

3. 事後評価結果

腕の剛性とは、外部の力からの影響を阻止する筋肉の仕組みであり、力が必要な課題には不可欠な要素である。ただし、動作と違って剛性は見えないため、自分がどう力んでいるかは把握しにくい。また、相手に正しい剛性を教えるのも困難である。そのため、本研究では、剛性フィードバックとそれを応用したインタフェースを開発し、運動の向上やトランスファーを目指した。

成果として、力みとばらつきを「みえる化」することで運動トランスファーの向上を目指した基礎から応用を見据えた研究に成功した点は評価できる。特に、こうした研究の多くが機材を使用した実験に終了してものが多いが、スマートフォンで運用できる計測システムを作って評価している等、一歩その先に行っているのが特に素晴らしいと思われる。

今後は、フィードバックによって身体動作の学習が実際に向上するところまで示せるとよいと考える。